

# 無知な飛鳥ちゃんのもちたぷおっぱいで金ビキニ 着衣パイズリしてもらう話

どったぷうん…♥♥♥ぶるんっ…♥♥♥むち♥むちちっ♥

「先生、いきなりどうしたんですか？こんな金色の水着に着替えてくれって…しかもすごくサイズも小さいですよ？」

「あ、もしかして、秘密の特訓ですか？布面積が小さいからこそできる修業があるんですよ、きつと！」

「あれ？先生、なんでいきなり脱ぎだして…えっ！？ちょ、ちょっと、パンツまで脱いだら…！きゃあっ！？」

ポロン！♥

「そ、そそ、それ、おちんちんですよね！？わ、わたしでもそれくらいは知ってます！こ、こんなの恥ずかしくて直視できないですよお…」

「一人前の忍者になるためには必要なこと…ですか？もっと恐ろしい形をした妖魔も存在する、って…そ、それっぽいこと言ってるだけなんじゃ…」

「え？腕をおっぱいに寄せて前傾姿勢…こう、ですか？えいっ！」

むっぎゅ〜〜〜〜っ♥ たぶんっ♥♥♥

ビキッ♥ビクッ…♥

「わ、わあ…お、おちんちん、びく♥びく♥って…すごい反応してます…！さっきよりもどんどん大きくなって…こ、これは、喜んでるんですか？」

「次は、座った状態で片側に体重を寄せて…っ、んしょ…な、なんかこのポーズ、かつ姉が持っている雑誌の写真みたい…グラビア？っていうんですよね？これで合ってますか？」

むっぎゅ〜〜〜〜っ♥ たぶんっ♥♥♥たぽっ♥むちい…っ♥

ビキッ♥ビクツ・・・♥ふーっ♥ふーっ♥

「最後はお尻を突き出して片腕でおっぱいを下から支える・・・こ、これでいいですか？ふ、ふりふりも？んしょ・・・♥ふっ・・・♥ふう・・・♥お、お尻動かしてたらビキニがどんどん食い込んでくる気が・・・こ、これ、布面積小さいから、ほとんど見えちゃってませんかあ・・・？」

ぷりんっ♥むちっ♥ぶるんっ・・・♥

バキッ♥ビキ♥ビキィ・・・♥はあ・・・♥はあ・・・♥

「す、すごい・・・おちんちんガチガチで苦しそう・・・先生の息も荒くなってきてます・・・私がいろいろポーズをしたせいでこうなっちゃったんですよね・・・？な、なにかできることがあれば教えてください！

「・・・おちんちんをおっぱいで挟む？そ、それだけで治るんですか？それなら私でもできそう！善は急げです、早くやりましょう！」

「あ、入れる前にこれを谷間に塗るんですね！・・・んっ♥な、なんかヌルヌルしてひんやりして変な感じ・・・」

にちゅっ♥ぬちゅう・・・っ♥にちや・・・♥ぬちやっ・・・♥

「このままおちんちんを入れて・・・えいっ♡♡♡」

にゅふう・・・♥ぬっふう～～～～っ・・・♥にゅちっ♥♥むっにゅ～～～～っ♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

「入りました！熱くて硬いのがおっぱいの中で・・・んっ♡」

むにっ♥むにい・・・っ♥

「こ、このまま上下に揺らして・・・っ♡」

ぱんっ♥ぱちゅっ♥たぱっ♥♥ぱちゅん♥ぱちゅ♥♥ぱんっ♥♥♥♥

「んっ・・・♡ちょっとむずかしいけど・・・飛鳥、先生のために頑張ります！」

だぱっ♥だぱんっ・・・♥どぱっ♥ぱんっ♥たぱっ♥♥たぱんっ♥♥♥♥

「んしょ・・・♡んしょ・・・♡先生、大丈夫ですか？おちんちん痛くないですか？」



たば♥♥ぬちゅっ♥ぱちゅっ♥♥ぱんっ♥♥♥ぱちゅん♥♥♥ずりゅっ♥♥ぱんっ♥♥♥

「あっ！おちんちん、ビクビクってます！先生の顔もとろけて気持ちよさそう・・・激しい方がいいんですね？なるほど！それなら・・・えいっ♥えいっ♥」

もちゅっ♥ぬちゅっ♥たば♥ぱちゅんっ♥♥どたぶんっ♥たばっ♥♥

「わあ♥先生、腰も浮いてきちゃってますよ？♥そんなに気持ちいいんですか？♥ほら、まだまだずりずりしてあげますから、がんばっておちんちん治しましょ？♥ほら、パイズリ♥パイズリ♥」

だばっ♥だぱんっ・・・♥どばっ♥♥ぱんっ♥たばっ♥♥たぱんっ♥♥♥

「パイズリ♡パイズリ♡がんばれ♡がんばれ♡おちんちんがんばれ♡おっばい気持ちいい♡パイズリ  
気持ちいい♡もちもちおっばいでずりずり♡」

ぱちゅ♡だぼ♡ぱちゅ♡♡ぱん♡♡♡たぱん♡♡♡ぱん♡ぱん♡♡

「あん♡おちんちん、どんどん硬くなってます♡え？パイズリしてあげてる人への気持ちを伝えながら  
おっばいのサイズを申告するとおちんちんが治りやすくなるんですか？なるほど、わかりました！♡ち  
よと恥ずかしいですけど…がんばって伝えますね♡」

だぼ♡だぼん♡…♡どぼ♡♡ぱん♡たぼ♡♡たぱん♡♡♡

「えへ…♡先生、好きです♡いつも私を見守ってしてくれる先生♡好き♡大好き♡かっこよくて  
♡頼りになって♡とっても大好きな先生♡見つめられるとドキドキしちゃいます♡いつもは隠してるけ  
ど…♡ほんとは好きで好きで仕方なくて、先生の特別な人でいたいって思ってるんです♡おっきな  
手で頭撫でられたり、おっきな背中にぎゅ～♡って抱きついたりしたいんです♡」

もにゅう♡どちゅ♡ぱちゅ♡♡だぼ♡♡ぱん♡♡♡たぱん♡♡♡ずりゅ♡ぱん♡♡

「時々修行で足を滑らせて先生に寄りかかって助けてもらってるのも…ごめんなさい♡わざとなんで  
す♡ちよとでも先生の体温を感じたくて、ドジなふりをしてました♡だって、先生が大好きなんです  
もん♡」

ぱちゅ♡だぼ♡ぱちゅ♡♡ずりゅ♡ぱん♡♡♡たぱん♡♡♡ぬちゅ♡どぼ♡♡

「そんな、だ～い好きな先生だけに…♡私のおっばいのサイズ、教えちゃいます♡みんなにも教え  
たことないですよ…？♡

だぼ♡ぱちゅん♡♡だぼん♡どぼ♡♡ぱん♡たぼ♡♡たぱん♡♡♡ぱちゅ♡♡ぱん  
♡♡♡たぱん♡♡♡どぼ♡♡ぱちゅん♡♡

「Mカップの…♡♡♡♡」

「116cm♡♡♡♡♡」

どぴゅ♡♡♡びゅく♡♡♡びゅる♡…♡♡♡♡びゅるるる♡♡♡♡♡♡♡♡

「ひゃ♡♡熱いのがおっばいの中で出ます…♡こ、これ、成功なんですよ…？♡先生のお  
ちんちん、治るんですよ…？♡」

びゅくっ♡♡びゆる…っ♡♡どぶっ…♡とぶう…♡♡♡どぶっ♡びゅくう〜っ…♡

「う、うそ…♡まだ出てる…♡♡すごい量です…んっ♡し、しかもくっさあ…♡♡なにこれえ…♡なんかクセになっちゃうかも…♡」

「これ、しゃせーっ言うんですね…♡先生、とっても気持ちよさそうな顔…♡私までドキドキしてきちゃいましたあ…♡」

くばあ…♡

「先生、見てください…♡だいすきな先生に、こ〜んなに汚されちゃいました…♡♡おっぱいの谷間、白いのでいっぱいです…♡♡♡」

「でも…先生のおちんちんはまだ治ってないみたいですね♡  
だから、あの…♡おちんちん治るまで、先生のためにパイズリしてもいいですか…？♡」